

# 近畿地方に侵入した外来種アカハネオンブバッタ の生活史と在来種オンブバッタとの繁殖干渉

大阪公立大学大学院 佐々木 健・平井 規央

## はじめに

外来種は、在来種や生態系に様々な影響を与えることから、生物多様性を減少させる大きな要因の一つと考えられており（日本生態学会編，2002；環境省，2025 など），その中には害虫種の割合が高いという指摘もある（梅谷，2012）。外来種が分布域を拡大する過程で在来の近縁種を駆逐する現象が様々な分類群で報告され，その要因として繁殖干渉が挙げられている。高倉ら（2012）によると，繁殖干渉とは種間で起こった交尾や交配が，自身や子孫の適応度を下げることにつながる現象を指し，交尾や交配が完結してもしなくても，それが繁殖成功度を下げるとされる。

アカハネオンブバッタ *Atractomorpha sinensis*（バッタ目オンブバッタ科；以下，アカハネ）は，従来から台湾，中国，インド北東部，ジャワ島，日本の南西諸島などに分布していたが，近年南西諸島以外の日本に分布を拡大しているのは国外由来と考えられている（加納ら，2016）。日本では2012年に初めて近畿地方の大阪府湾岸部で発見されて以降（松本，2014；山崎ら，2016；神吉，2018），2025年時点では，近畿地方の全域と四国地方の愛媛県（OKAYASU et al., 2020），徳島県，香川県，中国地方の岡山県（富永，2023），九州地方の長崎県対馬（村井，

2023），中部地方の福井県（梅村ら，2025）などに分布域を拡大している。オンブバッタ *A. lata*（以下，オンブ）は，海外では中国北部，台湾，朝鮮半島などに分布し，日本にも元々分布する在来種である（MUSE and ONO, 1996）。両種は外部形態が酷似しているが，アカハネ成虫では後翅が赤色または濃いピンク色を帯びているのに対し，オンブではほぼ透明であることなどから同定できる（Kim, 2009）（図-1）。ただし，羽化直後のアカハネでは，後翅は白色に近く，オンブにも後翅が薄くピンク色を帯びた個体が見られるので，翅のみでの同定には注意が必要である。幼虫については，同定は困難であるが，熟練すると頭部の形態等で識別できる。両種は異種間で交尾を行うことが報告されており（神吉，2018；佐々木ら，2025），在来のオンブがアカハネによる繁殖干渉を受け，アカハネの分布域の拡大やオンブのみの生息地において，アカハネへの置き換わりが起る可能性が指摘されている（佐々木ら，2025）。

しかしながら，アカハネとオンブの種間関係やアカハネの生活史に関する研究は多くない。本稿では，筆者が行った近畿地方の大阪府堺市における，両種の季節消長の調査について紹介する。また，分布の変化を知るために大阪府和泉市の低標高地から高標高地の7地点で2017年から2025年に行った両種の分布調査についても



図-1 アカハネオンブバッタ（左）とオンブバッタ（右）の雌成虫

Life History of a Grasshopper, *Atractomorpha sinensis*, Invaded the Kinki District, Japan and Reproductive Interference with Native Species, *A. lata*. By Ken SASAKI and Norio HIRAI

（キーワード：外来種問題，繁殖干渉，分布，季節消長）